

ちよつといひ話

～ 水 ～

水の働きには色々あります。水は流動する事に因って多くは生きていきます。自然の営みの中で水は時として大雨を降らし、土石流となって災害をも起こします。それでも水は我々人間が生きて行く為には必要不可欠のものであります。水は器に従ってその姿を変えますし、水には順応性も色々あります。人生は「雨降って地固まる」と申しますように、悪い事が起きてそれが返って効を奏し、良き状態になる事を言います。しかしながら「覆水盆に返らず」とも言われます様に、一度失敗をすると取り返しがつかないと言う人生訓もあります。人生に於いて水を智慧とし、器を身体とするならばどうなりますでしょう。器の形や大きさの中に水は納まりもするし、こぼれもする。智慧は泉の伏流水の如くに湧き出てくるものです。ですから水と器が同じように成長していくのが一番良い事でしょう。では内容は如何でしょうか。水にも色々ありまして、奇麗に澄んだ水は正しく善知識であり、清く、正しく、美しい姿、即ち、佛や菩薩の姿でしょう。濁り水は正しく悪智慧でしょう。悪智慧は不純、理不尽、身勝手な行動を指示してしまう事でしょう。又、色の付けられた水は迷いであり、心が迷わされ物を色メガネで見てしまい正しい見解、判断が出来なくなります。いずれにしても不透明な智慧や色でごまかされた身心は社会生活を営む上で障害になる事は間違いないでしょう。川の流れも上流は清流であり、下流になるに従って、文化生活をしようとする、人間によって汚され、やがて生命に異常をきたすようになってくると思います。司令を出す智慧に因って「雨降って～」になるのか「覆水盆に～」になるのか、どちらかを選択してしまいます。指針は自己の確立にあると思います。切切

善入院油掛地藏尊